

節ニ拘泥シテ會社ト交渉ヲ断絶スルカ如キハ勞働者側爲  
措ハ新ニシテ對テ輕暴ト安動ノ識ヲ免レサルハク日ハ明  
ノカレテ利用シテ威の態度ヲ取テシ會社ニ其ノ認  
容ヲ強要スルカ如ク事アラハ更ニメーデーニ對テ取締ノ方  
途ヲ講究機宜ノ措置ヲ執ルノ余義ヲキマテリト懸念  
スル所アリニ佐藤ハ其ノ意ヲ諒トシ稍態度ヲ緩和シ  
會社ヲ可成短期ノ回答期ハ附スルニ決テハ其ノ同猶豫ヤ  
ナルニ非ストノ意ヲ漏スニ至リタルヲ以テ今課長ハ直ニ會  
社ニ宮崎社長ヲ訪問其ノ意旨ヲ質シ以テ際回答期日  
ノ明示ノ緊切ナルヲ諒キタルニ會社ニ四圍状況ニ鑑ミ東ル五  
月六日朝回答ヲ與フルトニ決シタルカ職ニ側ニ亦幹部員ニ謀  
リタル結果之ニ同意シ本件ハ東ル六日朝迄留保一時鎮靜  
ニ歸シタルカ本件要求ニ對シテハ會社側ハ素ヨリ全部ヲ  
認容シ難キ模様ナルモ而カズ折衝妥協ノ可能性アリテ無事  
解決ノ見込ナルカ其ノ経過ニ付ニハ對續注意觀察中ナ  
右及通報候也

待秘第四五九一號  
大正十年五月一日

大政府知事 池松時和

内務大臣床次竹二郎殿  
各府縣長官 殿

メーデー

メーデー淋況ニ關スル件

既報關西勞働組合主催ニ係ルメーデーハ豫定ノ如  
ク本一日正午ヨリ濃厚行スルニ至リ之ヨリ先々其主催者並主  
ナル者ニ對シテ節制ヲ加ヘ規矩ヲ越ハサルハク嚴重ニ戒諭  
但シ運動ハ別紙(内務大臣閣下)往來重要事項書ノ範圍ニ於テ  
施行スルハ制限ニ當リ屬外ニ於テハ漸減ハ一切之ヲ許サズ  
單ニ集合解散地帯ニ於ケル秩序ノ維持ハ止メテ概シテ秩序  
ヲ保持シ得タルカ中運動ハ參加者ニ於テモ亦運動其モノニ精  
氣漸ク熾ニシテ參加者自身ニ於テモ亦運動其モノニ精  
興味ヲ覺セザルヲ觀テ是モモ行進ニ從ワテ漸次疲勞倦  
怠ヲ催スモノ不整尚一行通過治道ニカリテハ多少奇心ヲ以  
テ迎エ入目ヲ惹クヲアリタリ